

わかると快感!

Z会ナビ

算数

理科

歴史

地理

お題

古代には道に駅があった?

(東京大学 2000年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

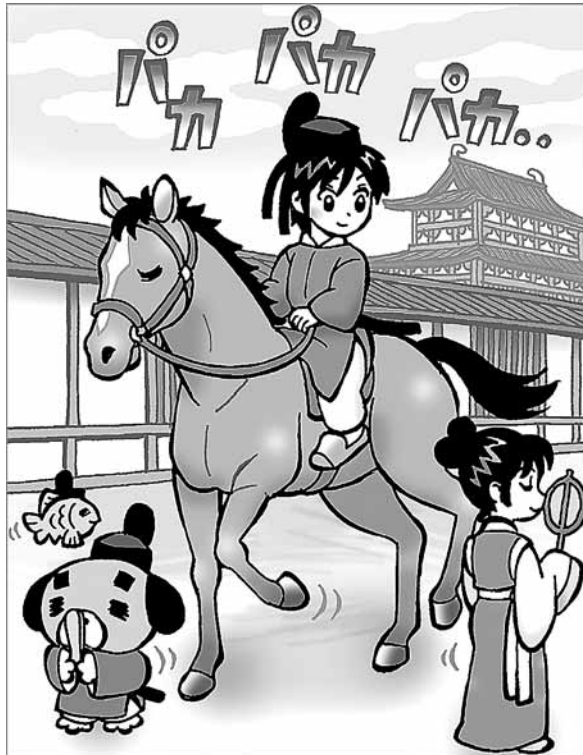
古代(奈良~平安時代)には、都と地方を結ぶ道路が作られ、道路には駅という施設が作られました。

- 山陽道の各駅には20頭、東海道と東山道の各駅には10頭、その他4つの道には駅ごとに5頭の馬が置かれた。
- 反乱や災害・流行病の発生、外国の動向などは、駅の馬を利用した使者により、政府に報告された。
- 流行病や干ばつにより、高齢者に稲を支給する命令が政府から出された。ある国では、この命令を伝えてきた隣の国の使者と、次の国に伝えるその国の使者に食料を与えたという記録がある。
- 駅の役人は、馬の管理や使者の手配をする代わりに、さまざまな税金が免除された。
- 使者は、位により利用できる馬の頭数が決められていた。

(1)~(5)の文章を読んで、駅がどのような目的で作られたのか、山陽道の馬がほかの道に比べて多い理由にもふれながら、説明しなさい。

今回は、奈良~平安時代に整備された日本の道路に関する問題です。この時代に作られた道路の中には、幅12尺にも及ぶ直線の道路もあったそうです。現在の日本の道路の2~3車線分の幅になります。すごいですね!

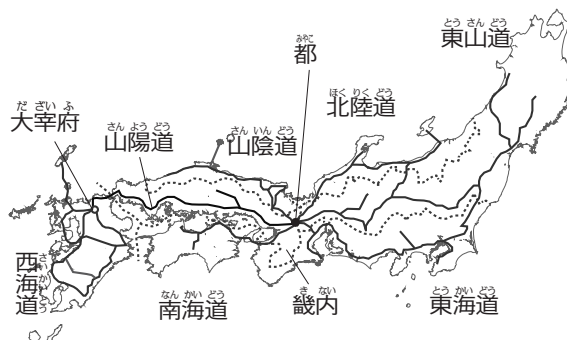
古代の日本は、右の地図のように地域が区分され、大きな道路が整備されていました。「東



イラスト：瑞木匠

道から歴史を みてみよう

海道」「山陽」「山陰」「北陸」などは、現在も鉄道や自動車道の名前として、残っていますね。



情報の伝わる道

駅が作られた目的は、(2)(3)を読むとよくわかりますね。新聞や電話、インターネットがない時代には、反乱や災害・病、外国の動向、政府の命令などの情報は、使者によって伝えられていました。政府が地方を統治する上では、欠かせない存在だったのです。(4)(5)を読むと、駅の役人が政府に優遇されていることや、位が高い使者ほど駅を優先的に使えるようになっていたことがわかります。

とくに重視された道

では、なぜ山陽道の馬はほかの道に比べて多いのでしょうか? ヒントは先ほどの地図にあります。山陽道は、九州にある大宰府と都を結んでいます。大宰府は、西海道の統治とともに、外国使節の接待を担当しており、とても重要であったことから「遠の朝廷」とも呼ばれました。外国使節の行き来も多かった山陽道は、使節に日本が立派な国であると見せるためにも、とくに整備が重視されたのです。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓

外の人に見られるところから、立派に、きれいにしていきましょう。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉育ち。